

Outlookで添付ファイルが受け取れない

Q

Outlook 2007を利用しています。Outlookを利用していない相手に添付ファイルを送信すると、winmail.datというファイルになっていると言われることがあります。どうすればいいですか。

A

メールをやり取りしていると、添付ファイルが「winmail.dat」という見慣れないファイル名に変わったり、添付ファイル自体が見えなくなったりして開けないことがあります。あるいは、ファイルを添付した覚えがないのに、受信者にwinmail.datというファイルがあると言われることもあります(図1)。

winmail.datが添付される現象は、マイクロソフトの「Outlook 2007」でメールを送信したときに発生します。原因は、Outlook 2007がTransport

Neutral Encapsulation Format (TNEF) という形式でメールを送信しているためです。TNEFはメールの送受信方式に依存せずデータを送るための形式で、受信側のOutlookに対して、固有の機能やプロパティを正しく送信できるようにします。

Outlookで送信するメールの添付ファイルもこの形式に変換されるため、TNEFに対応していないメールソフトで受信した場合、データの内容を正しく解釈できず、添付ファイルがwinmail.datに置き換わったように見えるのです。

TNEFに変換される最大の原因は、リッチテキスト形式のメールです。メールの本文は基本的にテキスト形式かHTML形式で送る必要があるため、リッチテキストで作成すると、OutlookはTNEFで送信します。

テキスト形式で送る

これを避けるには、「ツール」メニューの「オプション」から「メール形式」タブを選択し、メッセージ形式を「HTML形式」または「テキスト形式」にします(図2)。

本文テキストの設定をリッチテキスト形式以外にしているはずなのに、送信してみるとリッチテキスト形式になってしまう場合、そもそも送付先のアドレスのプロパティでリッチテキストに設定している可能性があります。メールのあて先やCCに入力されているアドレスをダブルクリックして連絡先のプロパティを開きます。さらに、電子メールのアドレスをダブルクリックすると、図3の「電子メールのプロパティ」が出ます。「インターネットメール形式」の設定を、「テキスト形式で送信」または「最適な送信形式を自動的に選択する」に変えましょう。

ただ、Outlookの初期設定では、上記の設定はリッチテキスト形式以外になっているはずなので、何らかの操作をした結果、変わってしまったと考えられます。こうした設定をし直しても状況が改善されない場合は、メールサーバーの設定が原因である可能性もあります。

●winmail.datに化ける

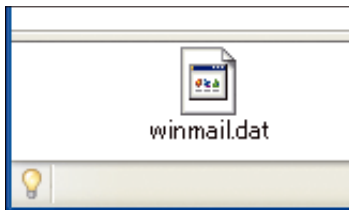
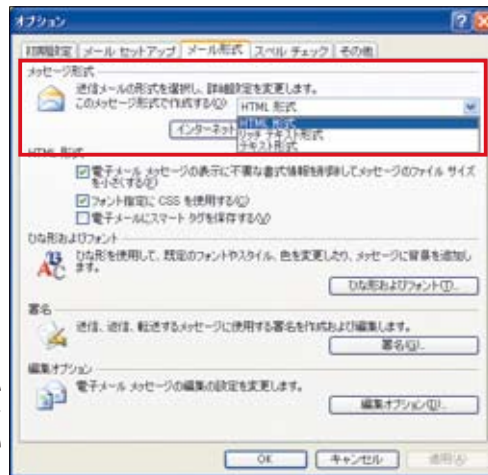


図1 「Outlook 2007」で送信したメールをOutlook以外のメールソフトで受信すると、添付ファイルがwinmail.datになることがある

図2 基本的にメールはテキスト形式かHTML形式が望ましい。Outlookのオプション設定でリッチテキスト形式を使わないようにするとよい

●リッチテキスト形式を使用しない



●アドレスのプロパティも確認する



図3 送信するメールの形式を変更していても、連絡先アドレスのプロパティの設定がリッチテキストのままでは意味がない